

摘、公的支援は国民に「生命・身体・財産の安全」を保障し損なった時の国家の責務であると強調した。

フロアーからは「被災地の状況は憲法二十五条に大きく反している」「六党案が通ったら被災者は絶望だ」

「仮設住宅では、中年・壮年の実態がより深刻となっている」などの切実な声が出された。

## 保険で良い入れ歯連絡会が運動再開

# 各地の交流と運動強化へ

「保険で良い入れ歯を」全国連絡会は、五月九日に第

三回総会を都内で開催し、十三団体から三十人が出席

した。

「保険で良い入れ歯を」運動は、九四年の診療報酬改定で義歯点数の大幅な引き上げを実現するなど一定

の成果を挙げたが、九五年秋以降、実質的に休眠状態になっていた。しかしこの間の健保改悪と今後政府が医療保険制度の改悪を進めようとしている中、あらためて運動を再開することになった。

総会では、冒頭に保団連の宇佐美宏副会長が情勢報告を行い、昨年九月の健保改悪の影響と政府が進めよ

うとしている医療保険抜本改悪について明らかにした。

続いて東京年金者組合の川壁正氏から運動方針として、運動の成果と教訓、反省点を明らかにし、九八年度の要求と課題を提起した。討論に先立って、この間、運動に取り組んできた東京連絡会、千葉県連絡会、中央団体などから報告を受けた。

討論では九八年度の要求

について、特に初診料・再診料の医科歯科格差の是正や歯科技工士の評価、また給付範囲の拡大など、患者と医療担当者双方の要求をどのように位置づけるかが議論となった。

まとめに当たって、歯科技工士の大沢文雄氏が「九八年度の要求については、各団体でご検討いただき、六月から七月に開催する交流会でまとめていきたい」と提起し、総会を終えた。



新たなる運動のスタートとなった総会